

2016～2017 釧路北ロータリークラブスローガン「堅実な精神で誠実な奉仕を」

11月9日（水）本年度第18回（通算 第2847回）

「ロータリー理解」

担当/ロータリー情報・ロータリー研修委員会 12時30分～釧路プリンスホテル

◆お客様と来訪ロータリアン

小林 貢君（終身会員）

◆メーキャップ

11/8 富樫 孝之君、平井 昌弘君、大澤 恵介君、川村 真一君、鈴木 圭介君、仁木 久司君、山岸 弘典君
（以上7名 釧路北 RAC）

◆出席報告【会員総数 76名 免除 6名 出席計算に用いた会員数 76名】

本日の出席率 出席者名 38名 メーキャップ 7名 出席率 59.2%

前々回の修正出席率 出席者名 33名 メーキャップ 33名 出席率 93.4%

◆ニコニコ献金（今年度累計 453,000円）

- ・佐渡直前、本日よろしくお願ひします ～富樫 孝之君
- ・佐渡直前、本日のご講演よろしくお願ひします。帯広店 OPEN のお祝ひありがとうございます
～平井 昌弘君
- ・佐渡さん、今日のお話よろしくお願ひします ～小野寺 英夫君
- ・バースデーケーキありがとうございます ～大澤 恵介君
- ・本日、講演させていただきます。よろしくお願ひします ～佐渡 正幸君
- ・佐渡直前、期待しております ～中島谷 友一朗君
- ・誕生日を迎えます。ありがとうございます ～森山 義文君、山岸 弘典君

◆会長挨拶《富樫会長》



皆さんこんにちは。本日も例会に参加頂きありがとうございます。

先日、釧路 RC80 周年記念式典が開催されました。北クラブからも多くの参加して頂きありがとうございます。80年の長い歴史を振り返り、なお前進してゆく姿、大変盛大に素晴らしい式典であったとおもいます。

準備から始まり釧路クラブの会員一人ひとりがしっかりと役職をこなして式典の終了までこなしてゆく。正に組織の結束力、団結力を再確認する良いキッカケなのかなと改めて実感いたしました。2年後、私たちも60周年でございます。釧路クラブに負けないようしっかりと準備を進めてゆかなければと思ひところでございます。

アメリカ大統領選の結果も気になるころではありますが、本日の例会は「ロータリー理解」ということです。ちょっと硬いイメージかもしれませんが、せつかくロータリーに入会して、活動を続けてゆく中で何が大事か？という中で今年度の重点目標にも一番目に挙げておりますが、やはり自分から進んで「出席、参加」しようとする気持ちが一番大事なのではないかと思ひます。出席参加意欲を高めるにはやはり、ロータリーを知り、実践することで楽しさを発見できる。そこからだと思ひます。

今日は佐渡直前会長より「タププリと熱いお話」を頂くことになっております。どんな話が聞けるのか大変楽

しみにしておりますので今日はどうぞ宜しくお願い致します。

◆幹事報告《平井幹事》



回覧で5点のみです。

- ① THEロータリアン 11月号が届いております。
- ② 市民活動センター「わっと」様より会報が届いております。
- ③ バギオだより 11月号が届いております。
- ④ 釧路市社会福祉協議会様より共同募金 70 周年記念チャリティビールパーティのご案内が届いております。
- ⑤ 釧路北ローターアクトクラブより 45 周年記念例会のご案内が届いております。

◆本日のプログラム 《ロータリー理解》

■石井ロータリー情報委員長の趣旨説明



皆さんこんにちは、ロータリー情報委員長の石井です。今日のプログラムはロータリー情報・研修委員会が担当してのロータリー理解です。このプログラムでは、パスト会長の皆様に、ロータリーの歴史なども交えてお話させていただいておりましたが、今日は最近のパスト会長にお願いしたいと考え、50代以降の会長さんにとりまして、55代の高橋貢さんと58代の佐渡正幸さんに半分ずつお願いいたしました。が、高橋貢さんの都合が急遽仕事が入り悪くなりまして、本日より佐渡パスト会長にお願いしたいと思っております。近年若い人の入会が多くありまして、その船頭役が佐渡さんだと思っておりますので、たっぷりとお話いただきます。

■佐渡パスト会長の講演



皆さんこんにちは。最近すっかり出番がなくなって寂しい思いをしている佐渡でございます。今回、小野寺理事、石井委員長からお話をいただきまして、このお二人から話をいただきますと、「YES or ハイ！」の状況で受けさせていただきました。ロータリー理解ということで、今までベテランのパスト会長さんが、ポールハリスの歴史から始まり、これからのロータリーのお話を、ただただ聞いている立場でありましたが、僕もこんな所で皆様にお話しする年になったのかなあと、つくづく感じております。去年、会長を終えたばかりなので、「ロータリーとは何ぞや」と偉そうに話すつもりはありません。私なりにお話をさせていただければと思っております。平成11年の1月に、私は入会させていただきました。時の会長は松原さんでございました。32歳の時に入りましたが、その当時は若い会員があまり居なくて、萩原さんが「やっと話の出来る若い人が入ってくれた」と言っていた記憶があります。時の先輩からはたくさんよい話を聞かせていただきましたし、当時は親睦も女装をすることが多く、村井会員のお父さんから「一緒に踊れ」と言われるなど、楽しい雰囲気ベテランの会員さん含め作り上げていただいていたので、そんな中でロータリーが段々と楽しいと思える様になり過ごさせていただきました。その間、ロータリーの他にも、JCや商工会議所青年部などにも入会し、ロータリーの優先順位が少し下がってしまったのですが、月に一回は出席しようという思いで過ごさせていただきました。僕の中でロータリーのスイッチが入ったのは、高橋貢会長のときに、富樫元会長が親睦家族委員会の委員長で、その際に副委員長をさせていただいた時からだと思っております。入会してから半年間親睦をやったのですが、そのあとずっと親睦をやってなくて、小松会長のときに会計をやらせていただき、青少年育成の委員長ですとか、職業奉仕ですとかその辺をやることが多くて、富樫委員長の下、私と、伊賀会員と、転勤された岡田拓会員と親睦をやらせていただいたときに、ロータリーというのは非常に楽しいなという思いになりました。その後、幹事から、あまりにも早く会長をさせていただく事になったものですから、少し地区の活動も体験したいと思い、自分の体に鞭を打って、地区の青少年育成の委員長をやらせていただきまして、去年会長という事になり、本当にメンバーの皆様にはご理解とご協力をいただいたと感謝しております。

私の年度から月間の目標というのが大きく変わりました。今までロータリー理解の月間は1月に行われていたのですが、この年から無くなっていました。新しい月間が増えまして、教育の問題ですとか、地域の経済の問題ですとか、母子の健康の問題ですとか、いわゆる地域の具体的な問題に挑んでいくことをロータリーは推奨しなさいという事なのかなと思っておりましたが、やはり、ロータリーとは何ぞや、ロータリー意義、理念、そして自分がロータリアンとしてどうあるべきかとしっかり考える例会が、僕は非常に重要だと思っております。そういう意味ではうちのクラブでは、アカデミー研修塾であるとか、8月のクラブの創立記念、2月のRIの創立記念において学びましょうという部分の例会をちゃんとやっている傍らしいクラブだと思っております。ロータリーを理解しましょうということにおいて、どういう事が大事なのかをあらためて考えさせていただきましたが、ロータリーに価値を見出して、そこから積極的に行動して、ロータリーに入って良かった、ロータリーに愛情を抱くそういう機会を自らが主体的に作る、正にそれがロータリー理解だと思います。ロー

タリーの本には「ロータリアンである限り、ロータリーのことを理解し、そして良く知ることは当然である」という事が書いてありますが、「当然である」と書いてあると若いメンバーは「なんでや？」って思うのかと思いますが、当然と言われると入口が狭く感じ、ロータリーの活動も狭くなってしまふ、それよりは、何の為に自分はこのロータリーに居るのかということをしかりと考える、そういう「手法」をこれから皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。「ロータリーはこうだ」「歴史はこうだ」という事は非常に大切で、学ぶことはあると思ひますが、実際にロータリーを知るためには皆さんの共通の認識として、こういう方法はどうかと、皆さんに提案させていただきたいと思ひます。



去年会長をさせていただきまして、重点目標としまして、出席率という話もさせていただきました。1年間を通して反省点がありますが、その反省点をこれから補っていくのが、パスト会長としての役目かと思っております。まず一つの方法としてロータリーを理解するために、体でロータリーを覚えたらどうかと思ひます。週1回の例会の規定というのがありますが、自分のクラブの中で半期の間、30%以上出席しなければならない。それからメーキャップも合わせて半期の間50%以上出席しなければならない。そして4回以上欠席をすると退会の勧告を受けることもある。そして一つの例会において、時間にして60%以上出席をしないと、出席扱いにならないというルールがあります。先ずは、こういったルールを皆さんで徹底する。例会に出席することがロータリーを知るまず第一歩だと思ひますので、皆さんで徹底する。規定を最低限クリアすることを皆さんの共通の認識にしてはどうかと思ひます。その他に親睦会、うちのクラブではゴルフくらいですかね？その他アクトの例会に出席し規定をクリアする、それから地区大会や、これからある「IM」などに参加いただくことで、ロータリーが何を目的にどういったことをやっているのかという事を自らの「五感」で感じていただけると思ひます。そして「家庭集会」に参加していただいて、先輩の会員の皆様から話を聞いて「五感」で感じる。先ずは「五感」で感じていただきたいと思ひます。

次にロータリアンの基本的な義務というのが3つあるのですが、先ずは「会費を納める」それから今言った「出席義務」もう一つは「ロータリーの雑誌を講読すること」がロータリーの3つの義務です。今日も配られましたが、皆さんは「ロータリーの友」を会費の中から買っております。買うだけではなくて、購読ですから、「読む」事も義務なのです。もう一つの提案は「文献によってロータリーを知りましょう」ということを提案したいと思ひます。会長になるときに、先輩たちがよくロータリーの歴史をお話いただくので、勉強しなければと思ひ、ロータリーの本を1冊読んだのですが、なかなか頭に入ってこなかったです。しかしこの「ロータリーの友」というのは、今正に全国、世界で行われている事を細かく写真つきで書いてあります。今日いただいたものも少し目を通しましたが、モンゴルのフレロータリークラブのジャンチブ先生の写真と話が載っておりまして、今日の話にもある出席についての話もあるクラブの方がかいておりました。私もこれまでじ

つくりとロータリーの友を読んでいるタイプではありませんでしたが、私の後輩の本間弘人君がロータリーに目覚めたのは「ロータリーの友」の記事を読んだときに「ロータリーって素晴らしい」と思ったそうです。ロータリーに入って良かったと思うことは其々個人差があると思いますが、「五感」で感じていただくことや、「文献」を読んでいただくことでそれぞれのロータリーの活動について気づいていただける方も居るでしょうし、これからのクラブの新しい奉仕活動のスタンスの発見もあるかもしれません。そういう事で、「文献」からロータリーを理解していただくという事を御提案いたします。定款や細則、手続要覧なんかもありますが、とても難しくて「不理解」につながってしまう恐れもありますから、まずは「ロータリーの友」を読んでみて下さい。

最後の提案ですが、私が入会した頃はベテランの会員の方とお話する機会が多かった気がします。お話を聞く機会が多かった。昔のロータリーの話や、活動の意味を真面目なだけではなく、くだけた形の中でうかがうことが多かった気がします。上手に教えていただきました。もう一つの提案は「対話をしましょう」です。私も含めてですが、どうしても年が近かったり、気の合う仲間だけで行動したりとなりがちですが、そうではなく、全ての人と対話をする、話をする機会を増やすことでロータリーを理解することにつながると思います。先ほどのロータリーの友にも、新しく入った会員さんがベテランのPast会長さんに「僕は君の事を120%応援するからね」と言われてロータリーに入って本当に良かったと思ったという事が書いてありました。皆さん御存知の通り、人間は人から言われた言葉で人生が大きく変わったり、希望を持ったりできるものです。ですから「対話をする」というのが本当に大切だと思います。

ロータリーの目的であります、この社会生活においての人間の幸せはいかに多くの人に幸せを与えられたかという事だとロータリーの目的に書いてあります。利己的な考えではなく、利他の精神というのがロータリーの考え方、理念であります。そういうものをロータリーで学ぶことで、高い人生観を学べる素晴らしい機会です。皆さんと意識して努力する方法を3つ、御提案させていただきました。本、富樫年度にこういった事を実践して、来年は森山年度、再来年は60周年でありますので、機会を通じ、北ロータリーに入って良かったなと皆さんが実感していただけるクラブとなる様に、微力ながら頑張りたいと思っております。最後になります。ロータリーを理解するということは、その人の人生を豊にするという事だと私は思っております。またそうありたいと思っております。一生のテーマですから断言はできませんが、信じたいと思っております。人生の財産はどれだけの金を得たかではなく、どれだけの心を分かち合える友人・知人を得られるかだと思っております。そのチャンスを得られる可能性の場がロータリークラブだと私は思っております。これからうちのクラブは60周年に向かうわけですが、平均年齢56歳と比較的若いクラブかとは思いますが、社会情勢的にも人口減少に向かっておりますので、是非とも若い仲間を増やす、若い仲間たちがベテランの皆様からいろんな部分で「5感」「文献」「対話」で情報を与えていただき、これからの北クラブを背負っていくぞと言う思いを持っていただければと思います。本日を期にこれからも頑張ってお参ります。最後までご清聴ありがとうございました。